**鐘楼・六時の鐘**

日本の古い時刻制度に従い、午前６時から午後10時まで2時間おきに鳴らされるこの鐘は、何世紀にもわたって時を刻み続けてきました。六時の鐘は「six o’clock bell　（６時に鳴る鐘）」という意味で、朝最初に鐘が鳴らされる時間を示しています。

定期的に聞こえてくる規則的な鐘の響きは、時の経過を告げるのに加え、高野山の修行僧や僧侶が意識を俗世への執着から遠ざけて、人を助け、哀れみをもって行動し、そして悟りを追求することに集中するよう戒めます。訪れる人々にとっては、この鐘は今この瞬間に意識を集中させ、落ち着いた気持ちになって周囲の状態に注意を払う機会を与えてくれます。

小姓の身分から有名な武将として大名にまで出世した勇猛な武士、福島正則 (1561–1624)は、1618年、両親を弔うためにこの鐘楼を建てさせました。中の鐘は、1640年に彼の息子によって鋳直されました。